

全国国公立幼稚園  
PTA連絡協議会

# 会報



第50号

発行者

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会  
会長 猪木直樹

事務局

岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31  
玉島テレビ放送(株)内

印刷

株式会社玉島活版所

## 「一陽来復」

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会

会長 猪木直樹



晩秋の候、生まれて初めて秋田の地に足を踏み入れました。倉敷はおだやかな天気、秋の紅葉がそろそろ見頃かなという頃、秋田の空は厚い雲がおおい初雪を目にし、凜とした身の引きしまるような空気を感じて空港に到着しました。秋田へは、来年度第五十二回全国国公立幼稚園PTA全国大会を開催する地であり、そのための表敬訪問、事前打ち合せ等のために訪れました。日本広しと認識していても実際に肌で感じて初めてわかること、四季折々の気候、その土地の風景、風習、それにとともなう郷土の伝統、理解するのにたいへんだった秋田弁など……。この様なすばらしさを子どもたちに親として、地域の大人としてしっかり伝えていく義務を痛感させられた瞬間でした。

申し遅れましたが、昨年八月、全国大会島根大会において、萬里

小路伸一郎会長の後任として選出いただきました猪木直樹と申します。微力ではありますが、全国の会員の皆様、並びに関係各位のご助力を得て、精一杯頑張りますので、益々のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

昭和三十八年に本会が結成され、数多くの先人達のご活躍により発展をとげました。私自身、昭和三十八年生まれですので、ここにも何かの縁を感じます。

現在、全国国公立幼稚園のおかれている環境は非常に厳しい状況にあると言えます。国が推進する子ども子育て新システムによる、幼児教育環境の変化、待機児童の解消のためという一面がクローズアップされがちな策案、そして、PTAの存在意義もぐらついている様に感じます。まさに今こそPTAの役割と必要性を内外に発信していく時だと強く感じます。PTAのすべての活動や事業も、子どもの教育環境を守るといふ側面と、保護者の見識を高めるといふ側面を持ち合わせていることを常に意識しておくべきだと思います。ひとつづくりの基礎である幼稚

園PTAである上に、これからの時代、まちづくりの観点からも幼稚園PTAが重要視されることはまちがいのない所です。そんな考え、想いを礎に、PTAが存在することが国公立幼稚園の最大の魅力であり、特色のひとつです。厳しい時代背景ではありますが、多くの支援者の力を借り、臆することなく国公立幼稚園で我が子を育てるということに誇りと自信をもつて子育てに携わっていきましょう。そして豊かさや便利さだけでなく、追いついていくのではなく、本当の大切なものを取り戻し、育てていく努力も肝要だと確信しています。こんな時代だからこそ、全国の皆様と力を合わせ、すべては、未来を担う子どもたちのためという大前提の元、さまざまな力を注ぎ、守り育てると共に、会員自身も成長できるように精進していく日々を重ねれば、必ず希望に満ちた光は見えてくることでしょう。まさに一陽来復。共にがんばりましょう。

## 平成25年度 優良PTA表彰 一文部科学大臣表彰

平成25年8月10日、第51回全国国公立幼稚園PTA全国大会「島根大会」会場「出雲市民会館」において、表彰式が行われた。

- |     |                 |     |              |
|-----|-----------------|-----|--------------|
| 岩手県 | 江釣子幼稚園PTA       | 徳島県 | 鳴門市板東幼稚園PTA  |
| 茨城県 | 美浦幼稚園PTA        | 香川県 | 高松市林幼稚園PTA   |
| 群馬県 | みどり市立笠懸幼稚園PTA   | 高知県 | いの町立伊野幼稚園PTA |
| 東京都 | 港区立青南幼稚園保護者会    | 佐賀県 | 小城市立芦刈幼稚園PTA |
| 静岡県 | 松崎町立松崎幼稚園中川園PTA |     |              |
| 静岡県 | 御前崎市立高松幼稚園PTA   |     |              |
| 滋賀県 | 竜王町立竜王幼稚園PTA    |     |              |
| 大阪府 | 大阪市立城東幼稚園PTA    |     |              |
| 島根県 | 出雲市立今市幼稚園PTA    |     |              |
| 島根県 | 松江市立古江幼稚園PTA    |     |              |
| 岡山県 | 岡山市立三門幼稚園PTA    |     |              |



特別寄稿

祝 会報第五十号に寄せて

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会

顧問 高橋 勝明



本会は昭和三十八年、当時の国公立幼稚園の教育諸条件や、教育環境の改善を行うためには、国立幼稚園PTAの全国組織が必要である、という機運の高まりの中で徳島・島根の有志の方々が中心となつて結成、第一回国国公立幼稚園PTA全国大会が島根県松江市において開催され、初代会長に故島谷敏男(徳島)、二代会長に故菊地章仁氏(熊本)が就任されました。

私は、昭和五十三年に単Pおよび愛媛県の会長になり、その年の全国大会(千葉)に参加して以来、今日まで三十五年にわたり全国国公立幼稚園PTA連絡協議会と関わつてまいりました。平成十年一月菊池会長が急逝され、会長代行に推され八月の大分大会で三代目会長に推挙されました。これまで故島谷、故菊池会長に

開催していただきましたが、皆様から寄せられた声は開催するまでは大変だったけれども、大会が終ればPとT、P同志の信頼と協力が一層深まり、単P及び県PTAの組織強化がはかられ、全国各地のPTAの実践活動を聞くことができ、また、近年は父親の参加が活発になり「親父の会」が結成される等、大変勉強になったと聞きおよんでいます。

このように見えますと昭和三十八年の第一回島根大会から第五十一回の島根大会まで、半世紀が過ぎこの間、社会は大きく変動し、また、幼稚園と家庭、地域を取り巻く環境も様々に変化してまいりました。しかし、時代は変わっても「三つ子の魂百まで」と言われるように、人間形成の基礎を培う幼児期の教育の重要性は変わるものではないと信じています。

その信念のもと、私も役員他、会員の方々のご支援とご協力をいただき本会の運営にあたってまいりましたが、平成十七年体調不良のため退任を決定し、事後を託すには最適者であると認識しておりました万里小路伸一郎氏に、第四代会長をお引受けいただいたのであります。

万里小路会長は、その手腕をいかなく発揮され八年の永きにわたり、本会の運営と発展に多大のご功績を残され深謝しているとこそでございます。

ことに、昨年の東京大会では本会設立五十周年記念式典を開催され、秋篠宮同妃殿下のご台臨を仰ぎ、お言葉を賜りましたことは、この上もない喜びであり本会が社会教育団体として、公に認められたものである、と確信するものであります。

そして今回、平成二十五年第五十一回島根大会において、万里小路会長は五代目として猪木直樹氏を新会長に推挙され就任されました。

猪木新会長は平成十八年の第四十四回兵庫大会から副会長として会長を補佐し本会発展のため多大に寄与され、その間第四十七回岡山大会の運営委員長として、すばらしい大会を開催されました。猪木会長は人格・識見ともにすぐれ、明朗活達な方であり万里小路氏の意を対し、立派に本会の運営に当たられるものと確信いたします。

平成二十五年年度 顧問・役員のご紹介

顧問

- 高橋 勝明(元全幼P会長)
万里小路伸一郎(前全幼P会長)
板東 幸子(元全幼P事務局長)
須藤 幸子(元全幼P事務局長)
楠元 祐子(元全幼P事務局長)
作道 昌宏(元全幼P事務局長)
中村 初美(元全幼P事務局長)
新司 英子(前全幼P事務局長)
上枝 秀則(前全幼P副会長)
今井 昇(前全幼P副会長)
磯部 頼子(元全国国公立幼稚園長会長)
酒井 幸子(元全国国公立幼稚園長会長)
齊藤美代子(元全国国公立幼稚園長会長)
岡上 直子(元全国国公立幼稚園長会長)
池田多津美(前全国国公立幼稚園長会長)
荒木 尚子(全国国公立幼稚園長会長)
大木 英雄(元全国国公立幼稚園長会長)
深町 芳弘(前全国国公立幼稚園長会長)
楚阪 博(全国国公立幼稚園長会長)

役員

- 会長 猪木 直樹(岡山)
副会長 大関 敏寛(秋田)
〃 中川 博喜(東京)
〃 太田 禎彦(静岡)
〃 矢原 健聖(大阪)
〃 野々村卓也(島根)
〃 西松 秀樹(愛媛)
〃 清松 督雄(大分)
〃 岩城眞佐子(園長会)
〃 山本三起子(東京)
〃 飯庭久美子(島根)
〃 船木 咲子(秋田)

事務局

- 事務局長 角屋 純子
書記 横田万寿子
会計 矢敷 憲子

# 第五十一回全国国公立幼稚園PTA全国大会 総会ならびに研究協議会 — 島根大会 —

## 大会報告

## 大会要項

八雲たつ出雲の国、島根県出雲

一 大会主題

市において、「島根大会」が、文部科学省をはじめ多数のご来賓をお迎えし、盛大に開催されました。

二 期日・会場

総会において八年間全国国公立幼稚園PTA連絡協議会の会長として尽力されました萬里小路伸一郎氏が退任され、猪木直樹氏（岡山県）が会長として承認されました。

平成二十五年  
八月九日（金）・八月十日（土）  
出雲市民会館

「縁—ENISHI—甦る出雲の神話」（親輪）に基づき、三園の提案発表があり、幼稚園と保護者が力を合わせて子育てをしている取組が発表されました。

三 日程  
八月九日（金）  
八月十日（土）

また、開催県のPTAの父親たちでヒーローショーの実演があり、体を張って子育てをされているなど感動しました。

八月九日（金）  
八月十日（土）

記念講演として「わんぱくスチャちゃん」〜出雲神話から学ぶ子育てのヒント〜と題して、出雲歴史博物館の専門島根県立古代学芸員、森田喜久男先生にご講演いただきました。神話や地域の物語を子育てに活用しようと語られ、参加者一同感動を受け、子育ての大切な指針をいただくことができました。

八月十日（土）

・ 総会  
・ 文部科学省講話  
・ 提案発表  
・ 記念講演  
・ 閉会式

・ 理事会  
・ 情報交流会  
・ 開会式  
・ 表彰式  
・ 総会

第五十一回 島根大会  
表彰状・感謝状受賞者（敬称略）

全国国公立幼稚園PTA  
連絡協議会会長表彰  
前全幼P監事  
大阪府 佐原 信江

全国国公立幼稚園PTA  
連絡協議会会長感謝状  
東京都公立幼稚園  
PTA連絡協議会

平成二十五年活動方針  
ならびに事業計画

一 活動方針（案）  
全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、結成以来、日本の子ども

の幸せと未来を保障するため、幼児教育の振興に、さまざまな形で寄与すべく活動を続けてきた。

また、幼児の育成に関わるものとして、自らその責任を自覚し、資質と見識の向上に不断の努力を傾注してきたと自負するものである。

しかし、現下の幼児を取り巻く環境は、少子化、価値観の多様化に加え、世上の幼児教育に対する理解不足のため、看過できない問題が山積している。

二 事業計画  
四月〜五月

・ 加入園へ会費納入と島根大会案内状発送  
・ 未加入園へ加入依頼書と島根大会案内状発送  
・ 平成二十四年度会務報告と決算報告書作成  
・ 平成二十五年理事名・加入園名報告依頼

・ 平成二十五年活動方針・事業計画書案と予算案作成  
・ 第二回理事会（東京）  
・ 理事会での検討事項の処理

六月〜七月  
・ 第六十四回全国国公立幼稚園長会総会「鹿児島大会」にて本会発展の協力依頼  
・ 表敬訪問（文部科学省）副会長会（東京）

・ 平成二十六年全幼P全国大会「秋田大会」における提案発表について依頼  
・ 第六十回全国国公立幼稚園教育研究協議会「滋賀大会」会長出席

八月〜十二月  
・ 会計監査、役員会、第一回理事会（島根）  
・ 第五十一回全国国公立幼稚園PTA全国大会「島根大会」  
・ 総会ならびに研究大会  
・ 島根大会決定事項の処理  
・ 会報五十号原稿依頼  
・ 全幼Pアンケート実施

・ 秋田大会開催について事前打合せ  
・ 平成二十六年活動方針・事業計画書案と予算案作成  
・ 第二回理事会（東京）  
・ 理事会での検討事項の処理

一月〜三月  
・ 会報五十号発行  
・ 未加入県へ加入呼びかけ  
・ 平成二十五年会務報告と決算の中間報告書作成  
・ 第三回理事会（東京）  
・ 理事会での検討事項の処理

## 大会宣言

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、第1回の「島根大会」から第50回の「東京大会」まで、半世紀にわたり幼稚園教育の充実に向け創意工夫を凝らし、数々の実績を積み上げてきました。

近年、社会情勢や生活様式の急激な変化を受け、幼稚園教育は抜本的な制度改革を含め、大きな変革期を迎えています。そのような中、「東京大会」では、人と人とのつながりや絆を深め、社会全体で健やかな子どもの育ちを支えていくことの大切さが示されました。私たちは、もう一度原点に立ち返り、家庭・地域・幼稚園がしっかりと手をつなぎ、次代を担う子どもたちの輝く未来のために、活動を展開していかなばなりません。

そこで、「島根大会」では、「縁—ENISHI—～甦る出雲の神話（親輪）～」を大会主題として掲げ、縁結びの地・島根から全国に向けて親子の縁、友達の縁、地域の縁など人と人との出会いやつながりを発信し、社会全体で子どもを育てるといふ地域の結びつきを尊重することで、子どもをつなぐ家庭・幼稚園・地域社会が大きな縁に結ばれ、多くの神話（親輪）が全国に広がることを願います。

**ここに、第51回国立幼稚園PTA全国大会島根大会の名において、次の決意を宣言いたします。**

- 1 家庭・地域・幼稚園の教育環境の充実に貢献します。
- 1 PTA活動を通して生涯学習意欲を高めます。
- 1 PTA組織及びその運営の充実を図ります。
- 1 幼児の安全確保と幼稚園の安全管理を強化します。
- 1 幼稚園教育の義務化と幼児教育諸条件整備を訴えます。



# 研究協議

## 提案発表Ⅰ

### 「園と家庭の輪」〜食で

#### 育む子どもの心と体

山梨県山梨市立つつじ幼稚園

PTA会長 奥秋 玲奈



#### 一 はじめに

山梨市は、県の北東部、甲府盆地の東部に位置し、JR中央線、中央自動車道、国道二十号を通じて首都圏百キロ圏内に位置します。

つつじ幼稚園は、昭和十九年女子師範学校の附属幼稚園として発足し、本年度で、創立五十二年を迎えます。

家庭と地域社会との連携を図りながら、基本的な生活習慣を形成し、豊かな心情や思考力の芽生えを培い、豊かな感性を育てることに努めています。

#### 二 PTAの活動内容

- ① 交通安全クラブ
- ② PTA日より発行
- ③ PTA奉仕作業
- ④ 文化サークル
- ⑤ 技能バンク

特技や趣味を生かし、「お手伝いできること」を登録していただき、園児たちが快適で楽しい園生活を送るための手助けをする。

- ・手芸裁縫班・ガーデニング班・イラスト班・書道班・畑の手入れ班・DIY（園内修理作業）・何でも班（保育サポート）

#### 三 幼稚園での食育の取り組み

- ① 完全給食
- ② 親子試食会
- ③ 栄養士の指導
- ④ 野菜作り

#### 四 アンケート

園児や保護者の食生活や「食育」に対する意識などを知り、今後の食育推進に役立てるために、アンケートを実施。その結果、子どもの心と体のために「食育」に関心が高い保護者が過半数を占め、野菜の栽培や収穫、一緒に料理をしたり、食べ物の大切さ、栄養的な事を伝えている家庭も多く見られました。一方で、家庭では「食育」を難しく捉えてしまい、具体的にどのように実施していいのかわからないという意見もありました。

- ・早寝早起き朝ごはん
- ・一日三食きちんと食べる
- ・家族そろって食事をとる
- ・「いただきます」「ごちそうさま」を言う

箸や茶碗の持ち方、並べ方などを身につける

安心安全な食材選びなど、当たり前のことを日々少しずつ重ねていくことが、豊かな食生活につながると思われました。

#### 五 終わりに

園と家庭で連携し、今まで以上に積極的に「食育」の推進に努め、健やかで豊かな子ども心と体を育んでいきたいと思えます。

## 提案発表Ⅱ

### 「新チャレンジの中から

#### 見える次への一歩

岡山県津山市立西幼稚園

PTA会長 福本 健一



#### 一 はじめに

「西の小京都」と呼ばれた津山の城下町として発展してきた津山市は、中国地方の東部に位置し、今もその面影を残す歴史ある街です。

西幼稚園は、昭和五年四月に創設され、創立八十三年を迎えました。保護者にも本園出身者が多く、三世代にわたって通園している家族もあります。

#### 二 PTAの活動内容

入園児数が毎年一定しない状況ですが、保護者やOBが参加しやすいような工夫を凝らした活動内容にしています。

- (1) ママランチ「きらいなやさいも、たべられる!!」

年に五回、当番のお母さんが料理を園で作り、園児、先生、ゲストと一緒に昼食を食べて、交流と反省会を行います。

- (2) 保育参加日「先生の偉大さに気づく〜」

三日間の保育参加日を受けて、保護者が先生の補佐として保育に参加します。保護者が園児の様子のみならず、先生の偉大さを感じることのできる貴重な場であります。

- (3) 育メンプロジェクト「予算ゼロからのスタート〜親父の葛藤〜」

より多くの父親が参加できるように、夜に集まって話し合うことから始めた育メンプロジェクトでしたが、予算が全く無く、メンパーも立ち上げ当初の方々が卒業され、育メンの方向性を迷っていました。

「小さなことからコツコツと〜親父の底力〜」まずは資金的な問題を解決すべく、月一回の廃品回収を行うことにしました。他にも、育メン会議、サッカー教室を毎月

定期的開催。

また、育メンBOX（要望書箱）を作り、育メンに対しての意見や要望をお母さんたちに書き入れてもらい、実現可能な限り取り組んでいくことにしました。最も要望が多かったのが、外壁塗装でした。作業は全てがボランティア、予算はバザーの収益から捻出。ゼロから、全員が力を合わせて大きな成果が得られました。

#### 三 終わりに

今回のテーマである「新チャレンジから見える次への一歩」ですが、PTA会長としてのチャレンジ、育メンプロジェクトへのチャレンジ、何もかもが初めての中、保護者や役員さんがお互い支え合って、子どものために色々な事を通して絆を深め、今後の子育てに生かす事で、次への期待や希望が見えてくるのではないかと感じています。



提案発表Ⅲ

「響きあい」

睦あつて・・・」

香川県宇多津町立宇多津幼稚園

副園長 梶 裕美



一 はじめに

宇多津幼稚園は、瀬戸大橋の四国側のたもとに位置する香川県で一番小さな町、宇多津町にあります。北を瀬戸内海、南を讃岐平野に面し、古くは港町として栄えました。

宇多津幼稚園は町内唯一の公立幼稚園として、明治三十九年に創立し、二度の移転の後、明治四十八年に現在の場所に園舎が建設されました。

二 PTAの活動内容

① 園行事の運営補助や環境整備  
② 機関紙「むつみ」の編集  
行事の時の駐車場の整理及び町の交通安全母の会に参加

三 みんなで子育てー実践ー

(1)「助け合う、お母さん」  
母親クラブの活動  
母親クラブの主な活動内容は幼稚園バザーと託児ボランティアです。

(2)「今こそメンズの力を」

メンズの会の活動  
父親の育児への参画意識を高めようと平成十五年から始まった本園独自の組織。運動会、発表会などの行事の運営の手伝い。お泊り保育の応援。また、年一回、土曜日に前メンズが子どもたちとふれあいを深める日です。

(3)「一人一人が大活躍!」

一人一役の活動  
年間行事のどれか一つに全保護者が係として参加する。  
(4)「読み聞かせで心豊かに」  
えほんママ活動  
希望者有志がえほんママサークルに入り、月一、二回、朝十五分(二十分程度、園児への読み聞かせを行います。

四 成果と課題

一点目、継続することばかりにとらわれず、勇気ある決断をしていくことが必要である。  
二点目は、メンズの会や託児ボランティアを定着するために後継者育成です。  
三点目は、保護者同士で声を掛け合い、保護者自身の自主、自律を推進していく仕組みづくりをめざすことです。

五 おわりに

「笑顔いっぱい 元気いっぱい」

だいき宇多津幼稚園」のキャッチフレーズのもと、げんきくんとえがおちゃんの育成に取り組んでいます。宇多津幼稚園の職員はもとより保護者のみなさんが、まず「げんきくんとえがおちゃん」で子育てを楽しんでほしいと願っています。

指導助言 ー I

文部科学省生涯学習政策局  
社会教育課地域・学校支援推進室

室長 高木 秀人氏



山梨市立つつじ幼稚園は、地域特性として農業関係、食育などに適しているというので幼稚園として食育に取り組まれたことは非常に良いことだと思います。  
また、PTAとしてアンケート調査をされ、方向性が示されていますが、母親だけでなく父親側の回答もまた今後の参考にしたい。

津山市立西幼稚園ですが、保育参観日に先生方の活動をフォローするような形で、日曜日も含んだ三日間行い、共働き家庭への対応をしていて非常に良いと思います。保育所では、一日保育士制度があります。幼稚園の方でもこ

の取り組みをぜひ広げてほしいと思います。また、育メンプロジェクトは、よい取り組みだと思います。現役の方のみならず、OBを中心に市内全域にこの取り組みが広がってほしいと思います。

宇多津幼稚園は、PTA組織に男性の参加を前提にしているところが非常にいいと思います。母親クラブや絵本ママと言われると男性が非常に入りにくいので、育メンプロジェクトやメンズの会という設定はいいと思います。また、「二人一役」もとても良いと思います。小学校では行っているところが多いので、幼稚園でも共働き家庭が増える中、身近な小学校などの活動をうまく生かしてほしいと思います。

指導助言 ー II

全国国公立幼稚園長会

会長 荒木 尚子氏

山梨市立つつじ幼稚園の提案は食育に目を向けた発表でしたが、PTA組織も工夫され、「技能バンク」として、特技や趣味を活かして技能を登録しお手伝いを募るという方法は、いざという時の心強い味方ですね。その中で「なんでも班」というのも作られ、心強い配慮だと思いました。また、食

習慣のアンケートを実施し実態を把握されたこと、保護者の意識を調査されたことも素晴らしい実績だと思います。一緒に、「おいし いね」と言って食べる時間を確保することが大切だと思います。

津山市立西幼稚園は、活動のネーミングが素晴らしく、聞いただけでイメージが広がり、やる気を引き起こします。親として、「子育ての喜びを感じ合おう」「子どもと一緒にいる楽しさを分かち合おう」という素直な気持ちが根底にあるからこそ推進できたのだと思います。今のメンバーで、特技や特徴を生かし無理のない範囲でできることを進めることが、PTA活動のコツかもしれません。また、OBの参加を拒まず強い味方として取り込み、参加しなくても引け目を感じない感じさせない参加方法の工夫も大切なポイントです。

宇多津幼稚園では、「母親クラブ」「メンズの会」があり、「メンズの力」というTシャツは目を見張るものがありました。ごく自然にのびのびと楽しく参画する姿がいたるところにあふれていました。宇多津幼稚園にはしっかりとした組織があり、実際に多くの工夫があり、時間をかけて積み上げてきた実績を時代の変化と共に柔軟に変えながら改善していく姿は

大いに参考にすべき取り組みです。園を取り巻く人々が創る輪の中で、子どもも大人も育ち合える土壌ができていくことこそ、人格形成の基礎を培う幼児期には大切なことと考えます。親の輪が、時とともに紡がれていくことがまさに本大会のテーマ「縁・えにし」だと思います。

## 講演 記念記

### 「わんぱく スサちゃん」 ～出雲神話から学ぶ子育てのヒント～

講師 島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員 森田 喜久男氏



本日は、スサノオの生き方から子育てのヒントを探ってみよう。スサノオの神話は、「古事記」や「日本書紀」、「出雲風土記」などに書かれている。ここでは、「古事記」を中心に考えてみたい。

「古事記」は、天武天皇の命令により、稗田阿礼が様々な神話や伝承を暗誦したものを、和銅五（七一）年に太安万侶が奏上したものである。なぜ、「古事記」を編纂する必要があったのか。それは天皇を中心に古代氏族が一つにまとまるためである。そのためには、自分たちの祖先の神々が素晴らしい活躍をしたという事を共通認識としてもつ必要がある。天皇を中心に氏族が団結することに、王権が強化される。そのような目的で、「古事記」が編纂されたのである。だから、神々や登場人物の動きはドラマチックになる。もともと語り部が語った言葉

を文章化するのだから、かなり苦労した形跡がある。さて、まず確認しておくべきことがある。それは、スサノオにはお母さんがいないということである。すなわちスサノオは、父であるイザナギが死んだ妻であるイザナミを追って黄泉国へ行き、連れ戻すことに失敗して黄泉国から逃げ帰ってきた後で単独で作った神である。イザナミは日向の橘の小門の阿波岐原という場所で禊ぎをし、黄泉国の穢れを落とした後、左目を洗ってアマテラス、右目を洗ってツクヨミ、鼻を洗ってスサノオを成した。父であるイザナギはアマテラスに天上界である高天原を、ツクヨミには夜の国を、スサノオには海原の統治を命じた。しかし、スサノオは「母なる根の国へ行きたい」と泣き叫び大量の涙を流す。その量たるや青山を枯れ山に変え、河や海の水を泣き干す程であったという。「古事記」に書かれたそのような表現を重視して、スサノオを「風の神」と考える研究者もいるが、むしろ思い通りにならない苛立ちを全身で表現している幼い子どもと考えた方がよいのではないか。それはデパートのおもちゃ売り場でゲームを買ってもらえず泣き叫ぶ子どものようなものである。このようなスサノオに手を焼いた父のイザナキは、海原からスサノオを追放する。一種の育児放棄だ。追放されたスサノオは、姉のいる高天原へと向かう。高天原を揺り動かす程、荒々しい足取りでやって来たスサノオを姉のアマテラスは疑った。「私の国を奪いに来たのでしょうか」「私はお姉さんにさよならを言うに来ただけです。疑うならお互いの持ち物を交換して子どもをつくりましょう」スサノオの持ち物である剣から生まれた神々は、三柱のかわいい女神たちであった。そこで、スサノオは、「ほらご覧。僕の持ち物から生まれたのはかわいい女神たちじゃないか。僕は正しかったんだ。ほうら見る。僕が勝ったんだ。」調子に乗ってスサノオは、高天原でいたずらを繰り返す。田の畔を破壊したり神聖な御殿に糞を垂れる。それでもアマテラスは弟をかばった。このスサノオの行動は、うれしさの余り調子に乗って暴走する子どもに似ている。だが暴走は時に思いがけない結果をもたらす。スサノオは、女神が機織りをしている家の天井に穴を開け、皮を剥いだ馬を投げ込んだ。びっくりした女神は、思わず機織りの棒でホトを突いて死ぬ。スサノオの大罪を恐れたアマテラスは、「天の石屋戸」にこもってしまい、高天原ばかりか地上の世界も真つ暗になる。騒ぎの原因を作ったスサノオは、高天原からも追放された。この後、スサノオは出雲の山間部、斐伊川上流の鳥髪地にやって来た。誰かいるのではとスサノオが行って見ると、アシナヅチ・テナヅチという老夫婦がクシナダヒメを囲んで泣いていた。老夫婦は娘をヤマタノオロチに捧げなくてはならず、泣いていたのである。アシナヅチが語って見せるヤマタノオロチの姿は、目が赤いおぼろきのように、体一つに八つの頭と尾があり、体にはコケやスギ、ヒノキが生えている。腹は血でただれていたという。このように見えていくと、とんでもない化け物のように見えるが、実はヤマタノオロチの正体は「山の精霊」である。ふだんは山の中に潜んでいるが、山の谷間の入口を切り開くような開発を行うと姿を現す。アシナヅチは晩稲の精霊であり、テナヅチは早稲の精霊、クシナダヒメとは霊妙な稲田の姫の意味がある。古代の出雲人は、山の精霊をお祭りしながら、開発を行った。その祭りの場でオロチと形式的に結婚した巫女がいた。ところが、大和王権が出雲に乗り込んで来て出雲の山間部で大規模な開発を強行すると「山の精霊」に対する祭祀は否定されてしまう。その結果、ヤマタノオロチを化け物とするような神話になってしまったのである。さて、スサノオは、アシナヅチとテナヅチに言わば頼まれる形で、ヤマタノオロチ退治に乗り出す。まずクシナダヒメを櫛に変えた後、何度も醸した果実酒を作り、酒船に入れてオロチに吞ませる。そして酔っ払ってぐてぐてんになった所を、スブラッターのように切り散らす。これが「古事記」におけるオロチ退治神話の本当の姿である。オロチを退治した後、スサノオはその尾から不思議な大刀を発見した。

スサノオは、そのクサナギの大  
 刀をアマテラスに献上し、出雲の  
 スガの地に宮を造ってクシナダヒ  
 メと結婚した。そして、「八雲立  
 つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重  
 垣作る その八重垣を」という歌  
 を詠む。

「神話は人類最古の哲学」と言  
 われる。神話とは、物語の始まり  
 を神様がお決めた事として  
 語った神聖な物語である。太古の  
 昔、神話は語り部によって語られ、  
 それを聞いた古代の人々は神話自  
 体が発するさまざまなメッセージ  
 を聞き、それぞれの生き方のヒン  
 トにしたのである。

私自身は歴史学出身の者とし  
 て、語り部によって語られたであ  
 るう本源的神話を「古事記」や「日  
 本書紀」の中から発掘し、元になっ  
 た神話の発するメッセージに耳を  
 傾け、それを多くの人びとに伝え  
 たい。「古事記」はまさに神話の  
 宝庫である。そこには生きるため  
 のヒントがいっぱいつまってい  
 る。どうかそのような観点で、「古  
 事記」を読んでいただきたい。  
 (事務局要約)



# 平成二十五年度 表敬訪問報告

平成二十五年七月十日全幼P萬  
 里小路前会長、荒木全国国公立幼  
 稚園園長会会長、同事務局長、全  
 幼P役員の計十五名が文部科学省  
 へ表敬訪問を行った。そして、国  
 公立幼稚園の実情をお話しした  
 り、諸問題についてお願いをし  
 した。  
 (ここに要望書の全文を載せる)

## 要望事項

一 国策として、幼稚園教育振  
 興・充実を図っていただき  
 たい。

公立幼稚園未設置市  
 町村が、全国で八八八  
 (五一・〇%)あります。こ  
 れら未設置市町村を解消し、  
 幼稚園教育を希望するすべ  
 ての幼児が完全に就園でき  
 るよう、次の項目を強く要  
 望します。

- (1) 市区町村に対する公立幼  
 稚園設置義務化のための  
 法整備
- (2) 三年保育の実施拡大

二 幼稚園教育環境の整備・拡  
 充を図っていただきたい。

公立幼稚園は小・中・高  
 等学校と教育環境において  
 様々な格差があります。幼  
 稚園教育充実のため、人的、  
 物的、及び、制度的環境の  
 整備拡充がなされるよう、  
 次の項目について特段のご  
 高配をお願いします。

- (1) 専任園長・教頭、養護教諭、  
 事務職員の配置
- (2) 発達の特性に応じたきめ  
 細やかな指導をするため  
 の正規教員数の確保
- (3) 都道府県及び市区町村教  
 育委員会に於ける幼児教  
 育専門の指導主事の配置
- (4) 安全管理・危機管理の人  
 員・施設・設備等の改善
- (5) 幼稚園施設の耐震化推進

三 国公立幼稚園教員の職責に  
 ふさわしい処遇を図って  
 いただきたい。  
 人間形成の基礎を培う重  
 要な幼児期の教育にかかわ  
 る幼稚園教員の待遇改善と、  
 資質向上を目指し、次の項  
 目実現のための制度を確立  
 してください。

(1) 幼稚園教員に対する教育  
 職俸給表の適用  
 (2) ライフステージに応じた  
 研修経費の確保

## 平成二十五年度 理事会報告

第一回  
 期日 七月九日(金)  
 場所 出雲市民会館  
 歴史と伝統を持つ神話の国出雲  
 の地において、各県の代表による  
 熱気あふれる理事会が行われた。  
 萬里小路前会長の挨拶の後、島  
 根大会渡部実行委員長から大会の  
 概要説明、荒木顧問の挨拶の後、  
 平成二十四年度会務・決算報告、  
 本年度活動方針、事業計画・予算  
 報告、平成二十五年度の要望、文  
 部科学大臣表彰、全幼P会長表彰、  
 会長感謝贈呈について報告をし  
 た。次年度秋田大会大関運営委

第二回  
 期日 十一月十四日(木)  
 場所 国立オリンピック記念  
 青少年総合センター  
 猪木新会長、荒木顧問の挨拶の  
 後、文部科学省生涯学習政策局社  
 会教育課学校支援推進室 鍋島室  
 長の話を拝聴した。そして、島根  
 からお礼の挨拶があり、大会が成  
 功裏に終わったことを確認した。  
 続いて、平成二十六年度の活動  
 方針・事業計画案を協議した。ま  
 た、今後の大会開催県、研究協議  
 提案県の確認をした。  
 第三回は平成二十六年三月六  
 日(木)東京オリンピック記念青  
 少年総合センターにおいて開催予  
 定。

# おめでとう

全幼P全国大会「島根大会」で、幼稚園の優良PTAとして、栄えある文部科学大臣表彰を受けられた14団体の中から、紙面の関係で、ここに三園のPTA活動を紹介します。

## 「親も子も楽しい幼稚園」

大阪市立城東幼稚園

園長 境 秀子

この度全国国公立幼稚園PTA連絡協議会において本園が平成二十五年度優良PTA文部科学大臣賞をいただきましたこと、本園に嬉しく、ありがとうございます。歴代のPTA会員の皆様や教職員の方々のご努力、地域の皆様のご理解とご協力の賜物と感謝いたしております。

城東幼稚園は、三歳児一組、四、五歳児各三組百八十人の園児が、ともだちいっぱい！ゆめいっぱい！たのしいいっぱい！を合言葉に、年間を通して親子のつな

がりを重視した活動を様々に行っています。また、地域の方とのふれあいも多く、昔遊びや盆踊りを教えていただく機会には保護者も一緒に参加しています。

### 【本園PTA活動の歴史】

本園の前身は大正十三年に地域の幼児教育への熱い思いから設立された園舎のない城東天然幼稚園です。その後大阪市に移管され、PTAは昭和二十五年に発足し、以降園児のために積極的な活動を続けてきました。OB会のめばえ会も毎年開かれ、幼稚園の力強い応援団になっています。

### 【PTA活動の紹介】

本園ではPTA会長を含む役員、実行委員、委員を中心に、全

保護者が会員としてPTA活動にかかわりながら、教職員と共に子どもたちの成長を見守り、活動しています。その活動の一部をご紹介します。

### ☆ふれあいレクリエーション

保護者手作りの遊びのコーナーで、親子で遊びます。魚釣り、お買い物、立体パズルゲーム、新聞プールなど毎年この日のために数日かけて準備し、特に新聞プールは、子どもたちが全身潜れる位の量の新聞を手で割って作ってください。当日は、各コーナーの係として、「がんばって」「すごいね！」等声をかけたり、「はい交替ですよー」と知らせたりします。子どもたちは、委員の方が自分たちのために一生懸命にしてくれている、いろいろななお世話になっているという感謝の気持ちを持ち、一緒に参加した保護者にとっても、「委員の方のおかげで



ふれあいレクリエーション  
新聞プールで大はしゃぎ

楽しいひとときが過ごせました」と委員活動を知る機会になります。

### ☆保育参加

運動会など、保護者が「お母さん先生」となり、各組に一名付き添います。「○○ちゃんのお母さん」ではない、「お母さん先生」に対しては、子どもたちも普段よりちょっと改まって話を聞いています。「日頃は見られない子どもたちの姿が見られる」「先生の大変さが分かった」と、保護者も楽しく参加しています。



もちつき  
お父さんパワーの見せ所！

もち米洗いから、蒸す、つく、丸める過程を体験します。一人ずつ杵を持って餅つきをし、最後の仕上げはお父さん、お母さん。力強いべったん、べったんの音に子どもたちから「よいしょ」と自然にかけ声が出ます。出来上がった餅で各自が小さな鏡餅を作り保育室に飾り新年をお祝いしています。

### ☆修了児の胸花作り

修了の日に付ける胸花は、年長児の保護者が作ります。フラワーの講師と毎年のデザインを検討し、講習会で自分の子どもにつける胸花を心を込めて作ります。子どもたちも、手作りの胸花が嬉しく、毎年胸を張って修了式に入場しています。



修了児の胸花作り  
我が子の晴れ姿を思い浮かべて

### 【おわりに】

「PTAって大変と思われるかもしれませんが、PTA活動を通して、家では見られない子どもの姿が見れたり、様々な行事を通して保護

者自身が大きく成長できたりして  
います。「一緒に活動することで、  
クラブ活動を共にする仲間のよう  
な信頼関係を築き、とても楽しい  
PTAライフを送ることができて  
います。この信頼関係は、小学校  
へ行っても続くと思います。」「こ  
れからも、楽しみながら！をモツ  
トーに幼稚園と保護者の懸け橋と  
なり、子どもたちの成長を見守る  
PTA活動を目指していきます。』  
と、頼もしいPTAの皆さんに支  
えられ、親も子どもも共に楽し  
幼稚園であるよう努めていきたい  
と思います。

### 子育て親育ち 全員参加のPTA活動

岡山市立三門幼稚園  
園長 津下 正美

この度、優良PTA文部科学大  
臣表彰という栄を賜り、今まで本  
園のPTAを築いて来られた先人  
の方々や現PTA会員の皆様、温  
かい地域の皆様に心から感謝して  
おります。

創立四十七年目を迎えた本園  
は、岡山市内の中心部に位置し、  
昔は大規模だった園がドーナツ化  
現象で一学年二〇人程度になり、  
三年保育で全園児六五名の小規模  
園となっています。そのため、P  
TA会員（教職員を含む）全員が、

本部役員と四つの部（文化部・交  
通部・事業部・学年部）のいづれ  
かに属し、一人一役全員参加のP  
TA活動を行っています。その中  
で、会員相互の親睦を図るとも  
に、子どもたちの心豊かな育ちと  
会員の資質向上を目指して日々取  
り組んでいます。

### 【べりべりタイム】

文化部が中心となって月一回降  
園前の時間に、保護者がクラスの  
子どもたちに輪番で読み聞かせを  
する「ぐりぐらタイム」を計画し  
ています。当番になった保護者の  
人たちが、読む本を相談して選ん  
でいます。子どもたちは「今日は、  
だれのお母さんが読んでくれるの  
かな」と、毎月楽しみにしていま  
す。



絵本を読んでもらった後は、保

護者と触れ合いながらの読み聞か  
せタイム。子どもたちが愛されて  
いると実感できる温かい時間と  
なっています。絵本を通していろ  
いろな体験をしたり親子で楽しさ  
を共有したりして、豊かな心を育  
んでほしいと思っています。

### 【あいさつ・てくてく運動】

「おはようございます」と、園  
門で笑顔で迎える交通当番の保護  
者の前には、ゴミ箱を準備してい  
ます。交通部が中心となって、あ  
いさつ運動と交通指導（通遠路の  
危険箇所に立って指導）・徒歩通  
園の奨励をするだけでなく、通園  
路に落ちていたゴミを拾って登園  
しています。自分たちの住んでい  
る街の環境美化に努め、気持ちよ  
い地域づくりをしようという気持  
ちをもってほしいと願っています。



小さい子どもたちを連れている  
保護者は、園門であいさつ運動を  
するようにし、無理なく月一回の  
交通当番に参加できるように配慮  
しています。

### 【子どもバザー】

事業部が、子どもたちにも買い  
物の気分を味わって楽しんでほし  
いと、昨年子どもバザーを始  
めました。



子どもバザーを、園のバザーの  
前に行うため、バザー準備に忙し  
い中、子どもたちの笑顔を思い浮  
かべながら、廃材を利用して遊び  
に使えるような物を作っていま  
す。

「どっちがいいかな〜」  
「これ、ください」  
と、子どもたちは大喜び！  
子どもバザーの後、子どもたちは  
自分たちが考えたお店ごっこを楽

しんでいます。

### 【クリーン活動】

学年部が中心となって、子ども  
たちが気持ちよい環境で過ごせる  
ように、また、教職員数の少ない  
園の手助けになるようにと、園庭  
の草取り・溝掃除・窓ふき・プー  
ルの清掃など年間五回のクリーン  
活動行っています。

子どもたちも草を取ったり土を  
運んだりなど、できることを手  
伝っています。清掃をしながら園  
の子どもたちや保護者同士が触れ  
合い、親睦を深める機会にもなっ  
ています。

### 【サラダクラブ活動】

市から講師料の補助金が出るサ  
ラダクラブ（グループ活動）には、  
学年部を中心とし、全PTA会員  
が所属し、年間七回（講演会・救  
命救急法・健康づくり・礼儀作法  
や伝統行事・食育など）の活動を  
計画して会員の教養や家庭生活の  
資質向上を目指しています。

活動する中で、会員同士が親睦  
を図り信頼関係が深まっていま  
す。

以上のような活動を通して、子  
どもたちや保護者が互いに育ち合  
い絆を深めています。卒業しても  
地域のネットワークづくりやボラ  
ンティアとして貢献しています。



◎一人一役制で全員参加  
四月、保護者一人一人の希望を基に話し合いがなされ、全保護者が四つある委員会のいずれかに所属して、活動がスタートします。

【ちまき委員会、餅つき委員会】

この度、平成二十五年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。この栄誉は、これまでPTA活動を支えていただきました保護者の皆様や教職員、そして地域の皆様の温かいご支援とご協力の賜物と心より感謝いたしております。

本園は今年度、三学年七十一名の園児が在籍しています。出雲市の中心部に位置し、明治四十四年に開園され、平成二十三年に創立百周年を迎えました。昭和二十五年にはPTA組織も誕生し、以来熱心なPTA活動が脈々と引き継がれてきました。しかし時代の流れと共に園児数の減少化傾向が進み、PTA活動の在り方も見直しが迫られました。そこで、一人一役制を導入し、役員にかかっていた負担の軽減化を図ると共にボランティアに参加できる機会を増やすことで、「できる時に、できる人が、できることを協力する」PTA活動へと改善を図ってきました。



【オロチ踊り委員会】

毎年十月に開催される地域の祭りのメインイベントであるオロチ踊りへの参加に向けて、練習会の

開催や用具の準備、当日の先導等を担当します。子どもたちの元気いっばいな掛声と踊り、お母さん方と職員の揃った踊り、お父さん方の力強い神輿隊が一体となった今市幼稚園連は、地域の祭りを盛り上げることに一役買っています。日頃から多面的にご支援をいただいている地域に対して、幼稚園も積極的に地域行事に参加し活性化に貢献していきたいと考えています。また、親子で参加することで地域住民としての意識や愛着が育まれていくことを感じています。



【ふれあい秋祭り委員会】

十一月に開催される「ふれあい秋祭り」は、前半は園児の活動から発展した祭り、後半は秋祭り委員会とおやじの会企画の催しで、親子、保護者同士のふれあいを目的に開催されます。その年々の委員で内容の企画、運営がなされ、保護者のみなさんのアイデアや特技、そしてチームワークの良さが感じられる温かな催しになっています。今年が一番人気はダイナミックなダンボールの動物迷路とお父さんとの相撲コーナーでした。また、今年で四回目を迎えた「おやじレンジャーショー」は、子どもにも大人にも大人気で、会場が一体となって盛り上がりました。

【ボランティアの心強い協力】

委員会活動が展開されている時に大活躍するのが託児ボランティアの存在です。幼い乳幼児連れのお母さん方が安心して委員会活動に参加できるための心強い味方です。また、他委員会の活動でも興味心があれば、いつでも自由に参加し、協力したり一緒に楽しんだりできる仕組みになっています。

◎園児の体験やPTA活動の幅を広げた「おやじの会」の誕生

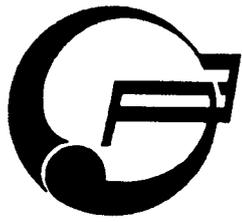
幼稚園創立百周年を記念して誕生した「おやじの会」。有志で発足したこの会も、翌年からは全園児のお父さんが会員となり「できる時に、できる人が、できることをする」をスタンスに活動を企画展開しています。

内容は、親子遊びの企画実施から遊具の制作・メンテナンス、園庭の芝生管理等、多岐にわたり、その象徴としておやじレンジャーが存在しています。お父さんたちならではのダイナミックな発想や行動力は、子どもたちの園生活をより豊かで安全なものにしていることを実感しています。



◎おわりに

核家族が増え、子育てが孤立しがちな現代社会において、幼児が健やかに成長するためには、幼稚園と家庭、そして保護者同士の温かなつながりや支え合いが不可欠です。『みんなで子育て・楽しく子育て』を合言葉に、これからは親と子、教師が互いに育ち合うPTA活動を目指して取り組んでいきたいと思えます。



全国国公立幼稚園  
PTA連絡協議会章

# 第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会 秋田大会ご案内

大会主題

子どもたちの幸せを約束するために  
～「絆」たくましく生きる秋田わか杉のふるさとから～

期日・場所 平成26年8月 9日(土) 潟上市・八郎潟ハイツ  
10日(日) 秋田市・秋田キャッスルホテル  
秋田市・秋田県児童会館



秋田県 県章

## 第五十二回 全国国公立幼稚園 PTA全国大会秋田大会

秋田大会 副運営委員長 佐々木 美奈子

第五十二回全国国公立幼稚園PTA全国大会「秋田大会」副運営委員長の佐々木美奈子と申します。

会員の皆様の日頃の活動へのご尽力に心から敬意を表します。

さて、秋田大会は平成二十六年「子どもたちの幸せを約束するために」～「絆」たくましく生きる秋田わか杉のふるさとから～を大会主題に、潟上市・秋田市にて開催いたします。

昨今の子どもの取り巻く育成環境と社会情勢の目まぐるしい変化の中で、次代を担う子どもたちの健やかな成長のために、私たちは何をすべきか。何度も同様の問いを投げ掛けながら、それに応えるべく実践活動を園・家庭・行政・地域住民が連携をして重ねてまいりました。

そして、私たちの活動主体である幼稚園PTAにこそ、その答えを導き出すヒントが数多く隠されていると考えております。

人々の価値観が多様化している

現代社会の中で子どもにとつての幸せ、そして産み育てていく私たち大人の幸せとは何であるかを一緒に考え、共有する良い機会になることでしょうか。

昨年八月、先回の第五十一回島根大会に参加させていただきました。その島根大会に関わった、関係者のご努力の様子に感銘を受けると共に、次年度開催される秋田大会へ思いを馳せ、気持ちを昂める良い機会となりました。出雲の地はとても暑く(熱く)、渡部実行委員長様をはじめとする関係諸姉諸兄の心からの歓待、和やかな雰囲気の情報交流会、趣向を凝らしたアトラクションや大会運営にとっても刺激を受け、秋田へ帰ってまいりました。島根大会で感じた「ふるさと」への熱い思い、誇り高さ伝統と文化を受け継ぎながら地域社会で子育てをしている様子を間近に感じる事が出来ました。

また、幼稚園教育に対する島根県の姿勢は次期開催地の秋田県に

も共通していることと、更に見習うべきことが多くあり、出雲での「縁」を秋田大会の「絆」に繋げるべく新たな課題も見出した島根大会であったと感じています。

それから約半年。秋田大会を六ヶ月後に控え、秋田大会運営委員会も精一杯の準備に励んでおります。現在、秋田県の加入園は二十園を下回っている状況です。加入園数の減少により人手・財政は慢性的に不足しており窮境の中での開催といっても過言ではありません。このような順風満帆とは程遠い状況ですが、この状況からも必ずや私たち自身に、そして秋田県やこの国の幼稚園教育に、もたらされるものがある。そう確信をして取り組んでおります。

子どもの数の減少や子ども・子育て関連三法の制定など、幼稚園教育の枠組み・環境の急激な変化を余儀なくされた今こそ、次回開催の地「秋田」に集い、変わらねばならないこと、守らねばならないことを見極める必要があるでしょう。国公立幼稚園PTAが目指す新たな次のステージに向け、歩みを進めるべく、スタートを切る二日間になると考えています。

また、秋田大会では遠隔地から参加される大勢の会員様に楽しんでもらう様々な工夫を施しております。

秋田県は国指定の重要無形民俗文化財の保有数が16と全国最多で、なまはげや竿燈に代表されるように古くから地域に根付くまつりや伝統芸能を大切にしています。アトラクションではこれらの伝統行事に託された、子どもの健やかな成長を願う親や地域の願いにもフォーカスします。

そして、秋田といえば、言わずと知れた学力トップクラス(全国学力・学習状況調査)の県です。今回の秋田大会にも、学力日本一の基礎となる、子どもたちの生活環境と生活習慣に関する秘密が垣間見えるかもしれません。

八月九日・十日はぜひ、秋田においで下さい。秋田大会運営委員長の大関敏寛をはじめとする運営委員会、そして秋田県会員が皆様のお越しをお待ちしています。秋田で大いに、そして熱く語り合いたまいます。必ずや参加して良かったと感じられる二日間をお約束します。

